

## オンライン教育

各務原市教育委員会 教育委員・朝日大学学長 大友 克之

大学教育においても、この3年間のコロナ禍を経て、オンライン授業が普及した。とくにオンデマンド型の配信システムを導入した大学では、時間と場所を選ばないことから、近所のカフェへ行き、フリーWi-Fi下での学修スタイルが学生からも好評と聞く。1.5倍や2倍速で視聴する学生も現れたが、一方で履修の進捗管理が難しく、学修成果の定着も二極化したことが課題として挙げられた。

米国ではインターネット技術の進展とともにMOOC (Massive open online course) と呼ばれるオンライン講座が広がった。世界のどこにいてもスタンフォード大学やUCLA、マサチューセッツ工科大学といったトップ校の講義が視聴できる。「白熱教室」で一世を風靡したあのマイケル・サンデル教授の授業もMOOCで配信された。

日本でも2013年にJM00Cが立ち上がったが「自分の講義こそが売り物である」、「他大学の教員、とくに同業他者には視られたくない」という大学教員らしい心理からか、なかなか普及が進まなかった。しかし現在は、『「良質な講義」を「誰も」が「無料」で学べる学習機会を提供することで、様々な分野における知識レベルの共通化・標準化を推進し、個人が意欲的に学ぶことを支援するとともに、個人の知識やスキルを社会的な評価へ繋げていくことを目指します』をミッションに掲げ、大学や企業等が授業を提供している。

翻って、わが国の初等中等教育では、学習指導要領に基づき、検定教科書が配られ、教育の質が保証されている。しかしながら教え方（生徒側から見れば分かりやすさ）という点では、一定のばらつきが存在することは否定できない。全国で同じことを教えるのであれば、指導要領や教科書の作成に関わった専門家が集まって、指導のポイントを整理し、日本で一番上手い先生に講義をしてもらい、これを録画。モデル講義としてオンデマンド配信し、各クラス内では担当する教員が生徒の理解度合を見ながら、その動画を進めたり、止めたりして、合間に解説などを入れながら進めるようなe-learningシステムを導入してはどうか。当然、モデル講義は、自宅や学習塾での学び直しにも再利用できる。授業中に居眠りをして、録画を戻せば学習し直すことができる。もしも先生の人選が困難であれば、ボーカーロイドなどの音声技術を利用してもよい。むしろ子どもたちには、その方が食いつきも良いかもしれない。

デジタル黒板やデジタル教科書の普及とともに、教育のコア部分を見直すことで、個々の教員の業務負担軽減にもつながるのではないだろうか。

## と (To) か み? (とみかの現在・過去・未来)

富加町教育委員会  
教育委員 大野裕司



### と (Today) 現在、住みやすい町

○面積 16.82 km<sup>2</sup> → 岐阜県の面積の 0.2% (県内 39/42 位)  
(4 キロメートル四方)

○人口 5,760 人 (R4.12.31 現在) → 岐阜県の人口の 0.3% (県内 38/42 位)

この数字が示すように本当に小さい町です、富加は。県内のランキングでは、面積・人口とも県内 42 市町村の下位です。

しかし、人口密度は 337.1 人/km<sup>2</sup>。おそらく県内 20 位で中程です。これを人が住んでいる宅地面積だけに絞って再計算すると約 3,300 人/km<sup>2</sup>と跳ね上がり、岐阜県トップクラスに躍り出ます。

さらに言えば、14 歳人口比率では、県内 4 位という信じられない数字です。絶対数は 792 人 (2010 年) で、隣接する市の 1 中学校の生徒数程ですが、郡部の小さな町であることからすれば驚くべきことです。

とみパン

富加町は小学校が 1 校です。平成 27 年 287 人だった児童数が、令和 4 年には 357 人。7 年で 70 人増えました。また、こども園も 1 園あり、

175 名 (5 年度は 211 名の予定) も在園する大きなこども園です。さらに、美濃加茂市との組合立中学校が 1 校あり、生徒数は 323 人です。平成 27 年 222 人から 7 年で 100 人ほど増えています。

近隣市町村との定住自立圏事業の活用、中学校規模適正化、町の第 5 次総合計画等の着実な推進の成果が表れています。それは何よりこの富加町が住みやすいことを物語っていると思います。

小さな町ですが、県の東・西・南・北に連なる交通の要衝に位置します。東海環状自動車道が走り、富加関 IC があります。国道 418 号が東西に、県道が 6 本縦横に走っています。長良川鉄道もあります。道の駅「半布里の郷とみか」、「半布ヶ丘公園」、「タウンホールとみか」、「子育て支援センター」などなど公共施設が充実し、新たに開通する県道沿いには、河川公園「とみぱーく」がオープンしています。勿論、生活に欠かせない大型商業施設もあります。



富加町立 富加小学校



人々が互いに近くに住み、生活の利便性や QOL (生活の質) が高いまちだから、楽

しみながら、誰もが安心して暮らしているのが現在の富加町です。

## か (Ka) 過去も住みやすい町

日本最古の戸籍＝「大宝二年御野国加毛郡半布里（みのこくかもぐんはにゅうり）戸籍」が多く人がこの地に暮らしていたことを示しています。702年、54戸に1,119人。これはすごい数字です。現在に換算すると23,500人強に匹敵します。極めて乱暴な私算で無意味かも知れませんが、驚嘆する人口です。

大宝二年（702年）から450年ほど遡った3世紀中頃、あの卑弥呼が邪馬台国に君臨した時代、ここも強大な権力者が支配したらしいと夕田茶臼山古墳が語ります。すぐ近くには蓮野1号墳、杉洞1号墳があり、併せて「夕田墳墓群」として国史跡に指定されました。さらには町全体には51基もの古墳が点在しています。

征夷大將軍として活躍した坂上田村麻呂（758年～811年）の力を借りて延鎮和尚が創建した白華山清水寺が富加にあります。この寺は、京都の音羽山清水寺と強くつながり、ご本尊は「木造十一面観世音菩薩坐像」、国の重要文化財です。この数十年、無住（兼務住職）ですが、熱心なボランティアの皆さんが守り続け、私もこの数年、微力ながらも活動に加わっています。



近代には、「木村小舟（しょうしゅう：1881年～1954年）」がいます。小舟は、子どものために多くの読み物を執筆し、また誰でも気軽に本に親しめるよう私設図書館を開設した人です。現在、子どもの読書に関する諸政策が展開されていますが、その先駆者が富加の人であることに誇りを感じるとともに、もっと評価されてもいい大人物だと思います。

現存していませんが、岐阜市に「岐阜通俗図書館」、富加に「加治田通俗図書館」を開設し、児童文学者としてまた児童文学研究者として誠実に歩んだ富加の偉人です。

## み (Mirai) 未来も住みやすい町

去年今年貫く棒の如きもの ～高浜虚子～

現在も過去も富加には、人が「集い、つながり、文化を創って」来ました。その結果、人々が「仕合わせ」であったことも。

「ふるさと教育」を進めている富加町教育委員会です。昔の富加に学び、今の住環境、自然環境、人的環境を生かして、昨今の多様化・重層化、混迷を深める諸課題に適切に対応し、一層の「仕合わせ」を生み出せるように、「未来志向の智慧」を絞るのが教育委員の役割ではないかと身が引き締まる思いです。